

QOLサポーター新潟

— 新潟医療福祉大学広報誌 —

第5号

2003年4月1日発行 新潟医療福祉大学広報委員会編集



第1回「はまなす学会」
(北新潟地域づくり学会) 研究大会
3月21日(祝) 本学大講堂を会場に、新潟市長篠田昭氏、豊栄市長小川竹二氏をお招きし、開催されました。

バスケットボール部(女子) 初出場初優勝

12月15日(日)に第7回藤田修一杯争奪県学生バスケットボール選手権で初出場初優勝の快挙を達成しました。



第2厚生棟竣工

9月30日(月) 体育館棟隣に、第二厚生棟が竣工。1階には学生が利用できるミーティングルーム、多目的室、和室、クラブ用倉庫、2階には学友会室、ミーティング室と焼きたてのパンを販売する「Kamu Friends」がオープンしました。



第2回新潟医療福祉学会学術集会

11月30日(土) 本学大講堂を会場に、「保健医療福祉の連携」をテーマに江藤文夫先生(東京大学)から基調講演をいただき、障害者の方もシンポジストとして参加して、シンポジウムが開催されました。



新潟医療福祉学会特別集会 「音楽療法のための国際ミニシンポジウム」

12月7日(土) 本学大講堂を会場に、新潟県内や米国の音楽療法士をお招きし、写真のように音楽療法の実演なども含んだシンポジウムが開催されました。

第5号では、P3・4で作業療法学科と社会福祉学科を特集しています。

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同等に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

本学の学生さんの活躍を振り返ってみました（5面も見て下さい）



レクア.（ドット）コム

レクリエーションを通じた地域との交流やボランティア活動を行っています。学校週5日制に対応する公民館の委託事業「一休さん」の企画・運営、肢体不自由児童クラブ「どらえもんず」や高齢者との「北ふれあい会」など、地域のニーズに応じて幅広く展開しています。

（活躍の様子は公衆衛生情報11月号や新潟日報などで紹介いただきました。）

トライアスロン

言語聴覚学科2年寺垣典恵さんは各地のトライアスロンの大会で大活躍しています。とあるきっかけで初めて出場したジュニアの大会で入賞し、今年度は海王丸カップトライアスロンの優勝を始め、多数の上位入賞を果たしています。



アルビレックス 新潟 レディース

Lリーグなどで知名度を高めつつある女子サッカーに、本学の学生の理学療法学科3年近藤千愛さんと言語聴覚学科3年山本千尋さんが参加しています。

（活動の様子は、新潟の情報誌PiPAなどで紹介いただきました。）



伍桃祭

10月13日（日）、14日（月）の2日間にわたり、第2回伍桃祭が賑やかに行われました。各クラブを中心とした模擬店、発表等や各学科の紹介コーナー、また、学外からはパンチ佐藤氏によるトークライブ、雅童によるミニコンサート、松浜太鼓による演奏など多数の企画で盛り上がりしました。



バングラデシュスタディーツアー

日本バングラデシュ文化交流会で実施したスタディーツアーに、本学学生も参加しました。

この活動ではバングラデシュ農村における住民参加型の保健、生活向上プロジェクトをおこなっています。

また、第6回地域保健・福祉セミナーとして学内外でその報告会を行いました。



医療技術学部作業療法学科 専任教員紹介

作業療法学科の特徴

本学のオープンキャンパスや、作業療法一日体験などの参加者などから「そもそも作業療法ってなんですか？リハビリテーションとは違うの？」などの質問がよく聞かれます。

作業療法は、障害があっても多くの可能性を持つ方々に作業活動を用いて、その能力を最大限に引き出しながら、その人らしい生活を獲得するよう援助します。

だれもが幸福を求めて働き、そして社会生活を営んでいます。しかし、社会には障害を持ったたくさんのおとな、子どもやお年寄りがいます。それは生活習慣病や交通災害をはじめ、精神病、小児期の障害、急速に進んだ高齢化などにもとづくものです。作業療法はこれらの方々の問題や生活について、様々な作業療法の手段を用い、その個人にとっての意味や価値のある生活を取りもどすために援助し働きかけていきます。

障害をもつ方々が、住みなれた地域で、いきいきと豊かに生活することを援助する、医療・保健・福祉・教育の総合的な支援をリハビリテーションといいます。その一翼を担う作業療法士は、障害をもった人々の自立生活の援助に積極的にかかわります。

作業療法の特性は、生活そのものに生かされてゆくという、力強さにあります。

本学では、経験豊富な教員を揃え、カリキュラムの充実を図っています。そこで、自分そして人間をみつめ、考え、語りあい、専門職として活躍する人材を育てたいと考えています。



左上より 榎本郁子

- ・ 講師
- ・ 基礎作業学、高齢期障害の作業療法など
- ・ 高齢期障害の作業療法

岡村太郎

- ・ 講師
- ・ 職業関連作業療法学、精神障害の作業療法など
- ・ 精神障害の作業療法

能登真一

- ・ 助手、修士（医科学）
- ・ 高次神経障害、医療経済学

濱口豊太

- ・ 助手、修士（障害科学）
- ・ 心理神経系作業療法学、心身医学、

永井洋一

- ・ 助教授、修士（理学）
- ・ 小児の作業療法など
- ・ 感覚統合療法、作業療法理論

大山峰生

- ・ 講師、博士（障害科学）
- ・ 運動学、手の外科の作業療法など
- ・ ハンドセラピー、手の運動機能解析

左下より 岩崎テル子

- ・ 教授、博士（医学）
- ・ 身体障害作業療法治療学など
- ・ 中枢性疾患による知覚障害の評価、高齢障害者の活動性評価

氏名

- ・ 職、学位
- ・ 担当
- ・ 専門分野

矢谷令子

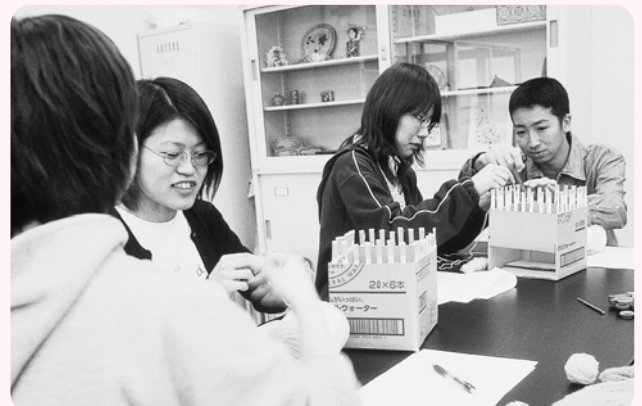
- ・ 学科長、教授、修士（管理運営学）
- ・ 作業療法概論、作業療法管理・運営学など
- ・ 作業療法一般

入江建久

- ・ 教授、博士（工学）
- ・ 住居における環境学など
- ・ 環境学

貝淵正人

- ・ 助手
- ・ 身体障害の作業療法、日常生活活動学



本学の社会福祉学科で取得できる資格

本誌第3号で社会福祉学専門科目担当専任教員を紹介しましたので、今回はお問合せの多い社会福祉士・精神保健福祉士の資格について説明します。

社会福祉士

社会福祉士は、福祉に関する相談援助の専門職で、1987年に福祉分野で初めての国家資格として介護福祉士とともに法制化されました。毎年1月下旬に国家試験が行われ、例年の合格率は約30%。2003年1月26日に行われた第15回では3万3千人余りが受験しましたので、今年も新たに約1万人誕生する見込みです。

法律上、社会福祉士の業務とされているのは「専門的知識及び技術をもって、身体上もしくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと」ですが、活躍の場は広が



っています。特別養護老人ホームや介護老人保健施設のような高齢者施設、それらの多くに併設された在宅介護支援センター、障害者や児童が通所・入所する施設、病院の相談室、福祉保健センターや児童相談所等の福祉行政機関、都道府県や市町村の社会福祉協議会。また、近年では痴呆高齢者向けのグループホームを開設したり、自分でNPO（特定非営利活動法人）や「社会福祉士事務所」を立ち上げて事業を営む人も徐々に増えてきました。

福祉施設では「生活相談員」や「指導員」などの職名で働いている人が多いのですが、共通するのは「ソーシャルワーカー（Social Worker）」としての倫理・専門知識・技術を持って、それぞれの職責を果たしている点です。「ソーシャルワーカー」は、相談援助の相手を生活者として見る視点、その人の家族関係や生計基盤など環境との相互関係の中でとらえる視点、人格・人権・自己実現を何よりも尊重する視点などに基づいて働いているところに特徴があります。

この資格を取得するための国家試験の受験資格を、本学社会福祉学科の学生全員が卒業とともに得られるカリキュラムを整えており、1年次から見学実習を含めた学外実習科目を配置して、実践力を備えた社会福祉士の養成に努めています。

精神保健福祉士

精神科のある病院や精神保健福祉センター（都道府県の機関）、精神障害者の社会復帰施設などで働くソーシャルワーカーをPSW（Psychiatric Social Worker）といいますが、その国家資格として1997年に法制化されたのが精神保健福祉士です。一定の条件をクリアした現職者が講習会を受けた後、国家試験を受け資格を取る人が多かったのですが、次第に福祉系大学・養成校から挑戦する人数が増えてきました。毎年、社会福祉士試験の前



日に同じ会場で国家試験が行われています。（社会福祉士の有資格者が通信教育で精神保健福祉士の受験資格を取得し、2つ目の福祉士資格を取るというケースもありますが、その場合、「社会福祉原論」「地域福祉論」等、社会福祉士と重複する6つの国家試験科目は受験免除となります）

日本の精神障害者施策は長い間、専門病院での入院治療が中心でしたが、他の福祉施策と同様、地域での生活支援が拡充される方向に向かいつつありますので、自立生活支援に携わる精神保健福祉士の役割が一層重要になるものと考えられます。本学社会福祉学科では、社会福祉士の指定科目に加えて精神保健福祉関係の選択科目を履修することによってこの国家試験の受験資格も取得できるカリキュラムとなっていますが、2つの資格取得は決して容易ではなく、4年次に行う「精神保健福祉援助実習」では精神的な疾患や障害をもつ方々との適切なコミュニケーションが求められるため、十分な学習能力と卒業後に精神保健福祉分野へ進む明確な意思のある学生に履修を認める方針をとっています。（社会福祉士養成の学科で精神保健福祉士受験資格まで取得する学生の割合は2割程度というのが福祉系大学の傾向です）

2面に続いて学生さんの活躍を振り返ってみました。



手話部 日和

月に数回、豊栄市にある手話サークル「豊栄かけはし」の皆さんと手話講習会を開き、手話技術の向上、聾唖の方とのコミュニケーションの機会を設けております。創立記念式や大学祭で練習の成果を発表しました。



陸上部

新潟陸上競技場で行われた、8月の北日本インカレや10月の北信越選手権に出場しました。中でも健康栄養学科3年廣木英里さんは走り幅跳びで北日本インカレ2位（北信越学生陸上競技10傑の第7位）という好成績を収めました。



吹奏楽部

これまでに入学式や創立記念式典、大学祭など学内行事での演奏や、地域の幼稚園、小学校からの依頼演奏などを行ってきました。（活躍の様子は太夫浜小学校HPでご紹介いただいております。
<http://www.niigata-inet.or.jp/tayuhama-e/14mochi.htm>）学内だけでなく、学外にも活動の場を広げています。



写真部

入学式や球技大会、大学祭など大学で行われる様々な行事で撮影を行い、自由参加の写真展「color」を開催しました。また、本誌掲載の写真についても写真部から提供のものが多数あります。

※クラブやサークルの一覧は、6面に掲載されています。



バスケットボール部

バスケットボール部は平成14年度に男女揃って北信越学生連盟に加盟しました。特に女子は12月に上越市で開催された藤田杯争奪新潟県学生選手権で初出場にて初優勝という快挙を達成しました。男子も新潟県大学リーグ戦Aリーグで3勝2敗の3位という好成績を収めました。

スキー実習



平成14年度体育授業の一環であるスキー実習が、2月26日から28日、3月3日から5日まで、新潟県と長野県の境にあるグリーンピア津南で行われました。

1回目は107名、2回目は46名、計153名の参加でした。一日目は薄曇り（1回目）雨（2回目）、二日目は吹雪（1,2回目とも）、三日目は快晴（1,2回目とも）、日々変化する自然の中

で、全員意欲的に活動しました。「吹雪を経験したからこそ、次の日の快晴が嬉しいんだよね」などの発言に象徴されるように、自然の変化を肯定的に受け止めている姿が印象的でした。雪を心地よいと感ずる経験が、必ず社会に出て、障害者や高齢者と接するときに役立つと考えています。（文責：高橋）

学友会長あいさつ

新会長の木村由佳です。私は、一年前の、新入生オリエンテーションで学友会の先輩方の楽しそうな姿を見て、学友会に入りました。一年間学友会で伍桃祭や球技大会などの計画、当日の進行の手伝いをし、とてもやりがいがあり、終わった後の達成感は最高でした。



新入生として学友会に入り何もわからない私に、先輩方は色々なことを教えてくれました。

今年度は私達が中心となって行事の計画、進行をして行く事になります。不安が無いわけではありませんが、先輩方に教えてもらった事、前年度の反省を活かし、また新しい事も組み入れ、新潟医療福祉大学の伝統作りに貢献できたら嬉しいです。

学生数も増え、さらに活気付いた本学に新入生は早く慣れ、行事を通して五学科の全学生がまとまった大学になるよう、他の学友会役員と力を合わせて頑張りますので、ご協力よろしくをお願いします。

学友会公認クラブ・サークル紹介

■クラブ

- ・水泳部
- ・バスケットボール部
- ・陸上競技部
- ・サッカー部
- ・卓球部
- ・剣道部
- ・バレーボール部
- ・ソフトボール部
- ・レクア、コム部
- ・軽音楽部 Zip
- ・手話部 日和
- ・写真部
- ・茶道部

- ・吹奏楽部
- ・野球部
- ・テニス部
- ・バドミントン部
- ・キネマ部
- ・コーラス部
- ・園芸部
- ・弓道部

■サークル

- ・サッカーサークルⅠ
- ・サッカーサークルⅡ
- ・ダンスサークル

※上記のクラブ・サークル以外で、新団体の設立を希望する方は、学友会へその旨申し出てください。

平成15年度オープンキャンパス開催のお知らせ

- 第1回 7月19日（土）
- 第2回 8月9日（土）
- 第3回 9月13日（土）

予定している主な内容

- ・入試概要説明
- ・体験実習
- ・模擬授業
- ・キャンパスツアー 等

詳細については入試事務室までお問い合わせください。

お問い合わせ先

入試事務室 025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

